

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果

問合せ先 ● 学校教育課 ☎63-3118

文部科学省は、毎年4月に、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策や学校の学習指導の充実に役立てることを目的に、すべての小学6年生と中学3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」を実施しています。令和5年度は、国語、算数・数学、質問紙調査に加えて、中学校において英語の調査が実施されました。

宍粟市では、この結果を分析し、明らかになった課題を克服するために、小・中学校が連携して学力向上に向け取り組んでいます。



調査の概要

(1)調査人数 小学校6年生【291人】 中学校3年生【310人】

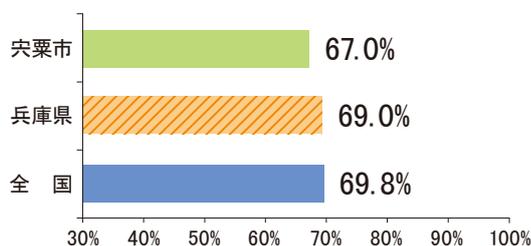
(2)調査内容

- ア 教科に関する調査
- ・小学校6年生【国語、算数】
 - ・中学校3年生【国語、数学、英語】
- イ 児童生徒質問紙調査
- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する質問

この調査により測定できるのは学力の一部であって、結果の数値などは児童生徒の学力の全てを表すものではありません。宍粟市ではこの調査結果を一つの目安として、生活課題を検証し、児童生徒の学習状況や学習指導の改善に取り組んでいきます。

1 児童生徒の学力状況(各教科の平均正答率)

中学3年生 国語



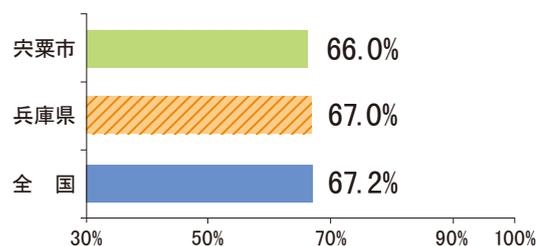
【よかった点】

- ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる。
- ・心情を表す言葉について理解できている。

【課題】

- ・文章を比較して共通点や相違点を見つけ、段落ごとに何が書かれているのか、また、全体としてどんなことが書かれているのかを捉えること。
- ・具体的な表現と抽象的な表現といった、情報と情報の関係について理解すること。

小学6年生 国語



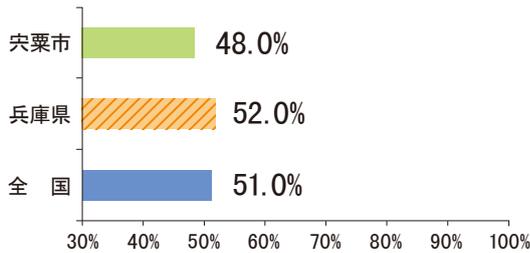
【よかった点】

- ・文章の中で漢字を正しく使うことができている。
- ・日常でよく使われる敬語が理解できている。

【課題】

- ・話し手の目的に応じ、内容を理解し自分の考えと比較しながら考えをまとめること。
- ・図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるよう、書き表し方を工夫すること。

中学3年生 数学



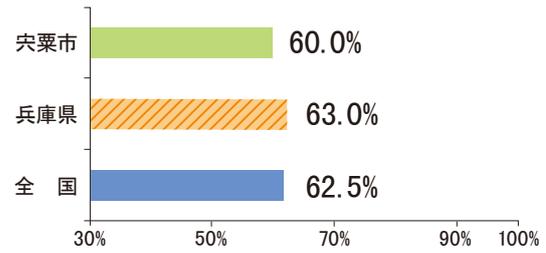
【よかった点】

- 数と整式の乗法の計算ができています。
- 四分位範囲(データのばらつきを比較するもの)の意味が理解できています。

【課題】

- 目的に応じて式を変形したり、その変形の意味を読み取ったりすること。
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること。
- 平行線や角の性質を基に、証明の流れを筋道立てて考えること。

小学6年生 算数



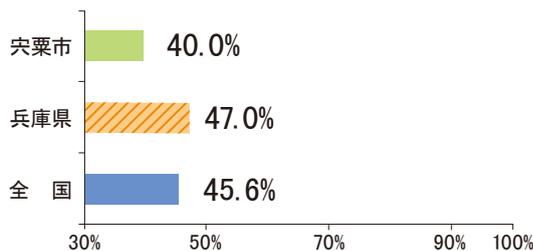
【よかった点】

- 一の位が0の二つの2位数のかけ算ができています。
- グラフを読み、見つけた違いを言葉と数を用いて記述することができています。

【課題】

- 正三角形の意味や性質、また、基本的な図形の概念や直線の位置関係などを理解すること。
- 百分率で表された割合や、「以上」「以下」「未満」などの用語を理解すること。

中学3年生 英語



【よかった点】

- 日常的な話題について、短い文章の概要をとらえること。

【課題】

- 相手の意見に対する自分の考えについて、その理由を書くこと。
- 情報を正確に聞き取ることや読み取ること。
- 自分の考えを整理し、必要な語数以上で書くといった条件を満たしてまとまりのある文を書くこと。

英語「話すこと」調査について

今年度は、4年ぶりに英語の教科調査が実施され、特に「話すこと」調査については、タブレット端末を用いたオンライン方式で行われました。この調査の結果に関しては、文部科学省が、他の教科と同日に実施する「当日実施校」として指定した一部の中学校において調査した結果をもとに平均正答率の全国値を推定しています。今回の「話すこと」調査における全国平均正答数(推測値)は全5問中0.6問、平均正答率は12.4パーセントとなっています。

文部科学省は「話すこと」調査における全国的な課題として、「社会的な話題について聞き、自分の考えとその理由を話すことに課題がある」としています。同省によると「聞いたことは理解できたけど、話す内容が思い浮かばなかった」「思い浮かんだけどその内容を表現する英語が思い浮かばなかった」といった生徒の回答があり、改善のポイントとして、日ごろからスピーチなど、まとまった内容を英語で発表する活動を計画的・継続的に取り入れることが挙げられています。

宍粟市の各教科の平均正答率は、小中学校の国語、算数・数学において、全国と比較し、いずれもプラス・マイナス5パーセントの範囲(全国平均と同程度)にありましたが、中学校の英語では全国平均を5パーセント以上下回りました。また、全体的な傾向として、どの教科も無解答が少ないという状況が特徴的でした。

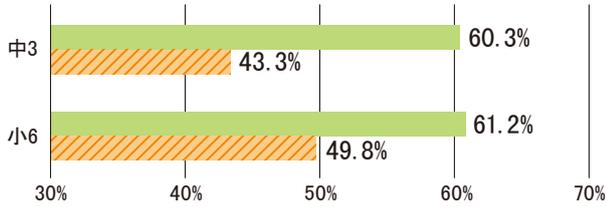
宍粟市では、「しそく学力向上検討委員会」による全国学力・学習状況調査結果の分析を行い、明らかになった課題の改善方策を提起しています。今後、各学校では授業改善をはじめとする指導方法や指導体制の工夫改善に努めていきます。

2 児童生徒の学習・生活状況(児童生徒質問紙調査から)

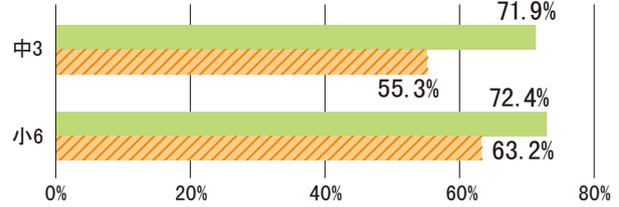
質問紙調査では、学校や家庭における学習や読書の状況、人間関係、自己有用感、地域とのつながり、ICTの活用などに関する質問があります。今年度は、外国の人への地域自慢意識や英語に関する質問も加えられました。ここでは、質問紙調査の主な結果をお知らせします。

■ 中央市 ■ 全国

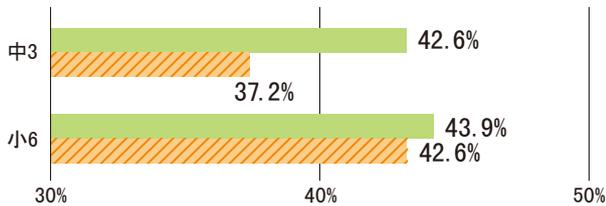
学校に行くのが楽しい



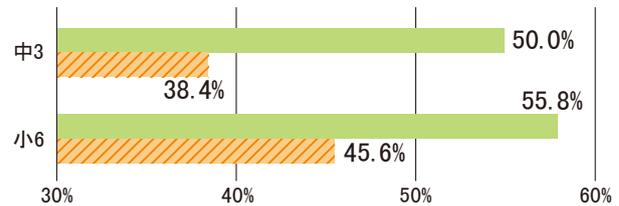
友だち関係に満足している



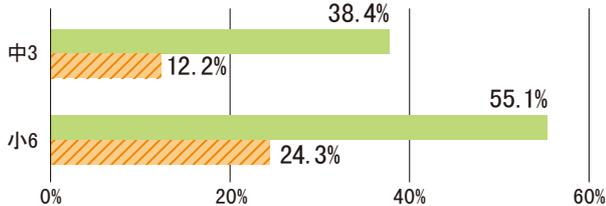
自分にはよいところがある



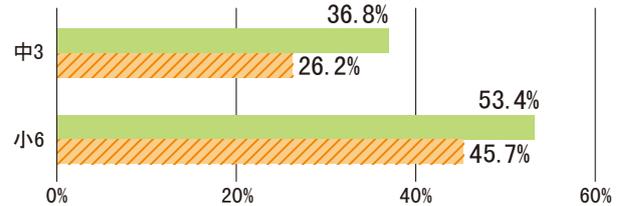
人が困っていたら進んで助けている



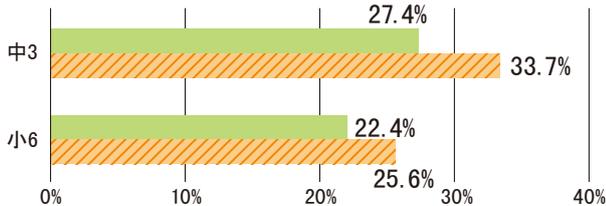
今住んでいる地域の行事に参加している



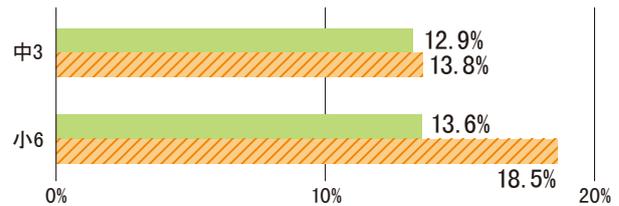
日本や今住んでいる地域のことについてもっと外国の人に知ってもらいたい



普段(月～金曜)、家で勉強を2時間以上している



普段(月～金曜)、家で読書を1時間以上している



学校に行くのが楽しい、友だち関係に満足しているなど、学校生活における満足感が高い傾向にあります。また、自己有用感も高い傾向が見られました。地域行事への参加や外国の方へ地域のよさを伝えようとする意欲など、地域とのつながりに関して前向きな回答が多い結果でした。一方、家庭学習や家での読書の時間については、全国平均よりも下回っています。

【学力と学習・生活状況との関係について】

今回の質問紙調査で、以下の回答をした児童生徒の平均正答率はどの教科も高く、学力との相関関係が顕著にみられました。

- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」「読書は好きですか」のいずれかの質問に肯定的な回答をした児童生徒
- 「新聞を毎日読む、あるいは週に1～3回程度読む」と回答した児童生徒
- 「家に何冊くらい本があるか」の質問に「100冊以上」と回答した児童生徒

しそ教育創造フォーラム ～子どもの豊かな学びと確かな学力のために～

宍粟市教育委員会は、令和5年12月2日に「しそ教育創造フォーラム」を開催し、市内小中学校教職員のほか、幼稚園やこども園の教諭や教育関係者が多数参加しました。「しそ学力向上検討委員会」から本年度の全国学力・学習状況調査結果の分析によって見えてきた課題や今後の取り組みについての報告や提起がありました。また、パネルディスカッションでは、学力向上をテーマに大学教授の議論が展開されました。提起された一部を紹介します。

【学力向上検討委員会の各教科部会からの提言】

- **国語** 言葉を根拠として自分の考えをまとめる
- **算数・数学** 自分なりの予想と解決の道筋を持つ
- **英語** 小学校・中学校がつながる語順指導
- **学習・生活状況** 子どもの主体の総合学習を展開する



【フォーラムで提起された取り組みやキーワード】

- 国語** ①小中一体的に取り組を進めることが大切。②答えの根拠は「本文」の中にある。それを児童生徒が見つめることが大切。③文章は自由に書くよりも、適度な条件下で自由に書く方が、表現力が伸びる。
- 算数・数学** ①他学年・他校種の授業をより一層見合う機会を作ることが大切。②公式を暗記し、演習が解くための作業になってはいけない。
- 英語** ①小学校の学習では音声中心で学んできたことを理解した上で、中学校での指導を行う事が大切。②小学校では必要なことをしっかり教え切ることが大切。③小中接続をより一層強力に。
- その他** ①授業改善のためには、教員自身が教材研究を楽しむことが大切。②小中の系統性を意識した教科指導が重要。③宍粟市は「地域とのつながり」「先生たちとの信頼関係」「児童生徒の自己肯定感の高さ」が強み。これは学力向上のための潜在能力であり、大切にしなければならない。



子どもたちの学力向上に向けた取り組み

- 1 しそ学力向上検討委員会を中心に全国学力・学習状況調査の分析をもとに、各学校で課題解決に向け、学力向上のための授業改善や日々の教育実践に取り組みます。また、具体的な取り組みのためのリーフレットを各学校に周知します。
- 2 児童生徒が自分で計画を立て、家庭学習に取り組んでいくことができるよう、学校においては総合的な学習の時間における探究活動の充実や、個別課題などの工夫を進めていきます。家庭における学習習慣の確立に向け、より一層の充実を図っていきます。
- 3 引き続き、学校と家庭の協力のもと、テレビやインターネット・ゲームなど、メディア機器を使う時間のルールを作ってきちんと守るなど、基本的な生活習慣の確立を推進していくとともに、読書の習慣化に向けて取り組んでいきます。
- 4 「自分が住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒は、今年度も全国平均を大きく上回っています。あわせて、外国のことを知り、地域を外国の人に紹介したいと回答する児童生徒も多く、児童生徒の「住んでいる地域を大切にしたい」「地域のことをよくしたい」と思う気持ちを育てていくためにも、学校では、家庭・地域のつながりを生かす取り組みを推進していきます。